

戦後70年となる今日においても、社会的紛争や突発的な自然災害等により、安全安心な暮らしや生活再建が急務となっている地域は、国内外には多くあります。行政機関や企業、専門家等による制度づくりや支援活動も積極的に進む反面で、地域住民の理解や合意、生活次元に反映された取組成果となるには課題も多くあるのが実情です。

この度の特別講演会では、8.20 広島土砂災害の発災後から安佐南区を中心として、地元自治会と、国・県・市などの行政機関、土業連絡会など専門家支援団体、大勢の一般ボランティアなどの多様な関係者とのコーディネート役として活躍されている立場から、復興まちづくりの取組みの現状と課題、展望を知り、意見交換を行う場とします。

◆日時：平成27年7月25日（土）15：00～17：00

◆場所：合人社ウェンディひと・まちプラザ 北棟5階 研修室A  
(広島市まちづくり市民交流プラザ) 広島市中区袋町6番36号

◆講師：満島 裕直 氏 (復興まちづくりサポーター)

◆演題：「8.20 広島土砂災害の現場から“復興まちづくりの課題”」

◆申込：宮迫勇次 E-mail:miyasako@fukken.co.jp 参加費：無料 50名定員

※資料準備のため申込みメールをください。7月21日迄【名前、所属、メールアドレス】

【講演内容】

1. はじめに
  - ・ JICA シニア海外ボランティア活動
  - ・ 東日本大震災での被災者支援活動
2. 広島土砂災害でのボランティア活動
  - ・ 「泥すくい」から「人救い」へ
  - ・ 三位一体「防災対策」「まちづくり」「生活再建」へ
3. 梅林学区自主防災活動の支援
  - ・ 防災マップ作りで地域力の強化
  - ・ 避難訓練の実施で見てきた課題
4. 生活再建に向けた課題と展望
  - ・ 意見交換



【講師プロフィール：  
満島 裕直 (みつしま ひろなお)】

2003年、環境アセスメント会社を退職し、以前から関心の高かった国際ボランティア活動を開始。JICA シニア海外ボランティアとして、ポリビア共和国で2年、パラグアイ共和国で2年活動。その後、エクアドル共和国でコロンビア難民と社会的弱者に対して日本の製菓・製パン技術を指導。

2011年3月の東日本大震災以降、海外ボランティア活動を取りやめ、広島市被災者支援ボランティア本部事務局で活動。震災ボランティアとして、石巻市・南三陸町・陸前高田市・大槌町・釜石市・遠野市・大船渡市等の被災地で支援活動に従事。3年前から、アース・ミュージアム元宇品の自然観察ガイドとして、ボランティア活動中。昨年8月の広島土砂災害から、災害ボランティアとして安佐南区梅林学区（八木～緑井）を中心に被災者支援に取り組む。

主催：公益社団法人日本都市計画学会中国四国支部

事務局：広島市西区楠木町一丁目14-10-202 地域計画工房内 082-293-1460 担当：企画・研究委員会